

令和5年度学校評価報告書

令和6年3月5日

北海道教育委員会教育長 様

北海道帯広養護学校長 業 天 誉 久 印

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

児童生徒一人一人の障がいの状態や特性に応じた授業力及び実践力の向上に努める。
--

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教職員	- 全体の評価としては、平均点が3.0を超えている項目が約80%あり、おおむね高い評価となっている。 - 平均点が3.0以下の項目が5項目（時間外勤務の縮減【No.2】、教育課程【No.7】、進路指導の充実【No.13】、地域資源の活用【No.16】、研修・研究【No.20】）ある。 - 教職員一人一人が、学校全体の課題として考え、働き方改革を進めるという意識の希薄さが要因として考えられる。 - 小・中・高の系統性のある教育課程、計画的かつ系統的な進路指導、地域資源を活用した教育活動の充実については、学校運営協議会を活用し、改善と充実を図っていきたいと考える	- 授業づくりは子供の実態（障害・発達・生活）を把握することからスタートする。また、指導の積み上げのは遅効性があることを考慮することも必要である。 - 教育課程づくりにおいては、12年間の系統性と確かな接続（小学部・中学部・後頭部の引継）が大切になると考える。 （学校運営協議会委員）
改善方策	- 業務改善計画を策定し、業務の偏りの改善、業務量の削減、協力・協働・組織的な対応の改善を図り、「教職員が働きたいと思える魅力ある学校」を目指した働き方改革の深化・充実を図る。 - 地域資源（人的・物的）の活用やキャリア発達の視点からの学習活動の改善に係る熟議をとおして、地域と連携・協力した教育活動のさらなる充実を図る。 - 教職員一人一人が常に研究や修養に努め、児童生徒理解をさらに深め、「指導の個別化」（多様な学習機会の柔軟な提供）と「学習の個別化」（自らに最適な学びの自己調整～①得意な領域を育てる②得意な学び方を育てる）の充実を図るとともに、授業研究や事例研究等をとおして、授業改善及び指導力の向上を図る。	
保護者	- 全体の評価としては、平均点が3.0を超えており、おおむね高い評価を得ている。 - 評価項目の中で「分からない」とう回答が3項目（安心・安全な学校【No.6】、児童生徒の人権を尊重した指導【No.7】、PTA活動【No.16】）で20世帯を超えている。 - 授業や学校行事を参観する機会が少ないことや連絡ノート、学級通信などでの情報発信の不足、PTA活動の情報提供や報告不足が要因として考えられる。	「安全・安心」や子供たちの学びを支えるにあたり、子供理解（障害・発達・生活）及びの施設設備の整備は必要だと考える。教員の資質・能力の向上と施設設備の改善に向けて引き続き取組を進めて行く必要があると考える。 （学校運営協議会委員）
改善方策	- 学校ホームページの定期的な更新、学年通信（学級通信）の内容の充実を図り、保護者や地域に向けての「可視化できる」「分かりやすい」「タイムリーな」情報の発信に努める。 - PTA活動の創意・工夫と、会員のニーズに応える内容の検討など、会員が参加しやすく魅力あるPTA活動の推進に努める。	

公表方法	- 保護者への配付 - 本校ホームページへの掲載 - 学校運営協議会における評価結果の提示
------	---

3 添付資料

- 令和5年度 学校自己評価集計結果＜教職員＞
- 令和5年度 学校評価保護者アンケート集計結果＜保護者＞